

① 申請者	◎福井県 (小浜市、若狭町)	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E	
③ タイトル				
海と都をつなぐ若狭の往来文化遺産群 ～御食国若狭と鯖街道～				
④ ストーリーの概要 (200字程度)				
<p>若狭は、古代から「御食国」として塩や海産物など豊富な食材を都に運び、都の食文化を支えてきた地である。</p> <p>また、大陸からつながる海の道と都へとつながる陸の道が結節する最大の拠点となった地であり、古代から続く往来の歴史の中で、街道沿いには港、城下町、宿場町が栄え、また往来によりもたらされた祭礼、芸能、仏教文化が街道沿いから農漁村にまで広く伝播し、独自の発展を遂げた。</p> <p>近年「鯖街道」と呼ばれるこの街道群沿いには、往時の賑わいを伝える町並みとともに、豊かな自然や、受け継がれてきた食や祭礼など様々な文化が今も息づいている。</p>				
⑤ 担当者連絡先				
担当者氏名	小浜市産業部文化交流課 日本遺産都市交流グループ 主幹 下仲 隆浩			
電 話	(0770) 64-6034	FAX	(0770) 52-1401	
E-mail	rekishi@city.obama.fukui.jp			
住 所	福井県小浜市大手町6-3			

市町村の位置図 (地図等)



出典：国土地理院ホームページ (<http://maps.gsi.go.jp/>)  
地理院地図を加工して作成 (以下のページの地図すべて同じ)



構成文化財の位置図(地図等)











#### 4 熊川宿 拡大図







ストーリー

海と都をつなぐ若狭の往来文化遺産群 ～御食国若狭と鯖街道～

日本海にのぞみ、豊かな自然に恵まれた若狭は、古代、海産物や塩など豊富な食材を都に送り、朝廷の食を支えた「御食国」のひとつであり、御食国の時代以降も「若狭の美物（うましもの）」を都に運び、京の食文化を支えてきた。近年「鯖街道」と呼ばれる若狭と都をつなぐ街道群は、食材だけでなく、様々な物資や人、文化を運ぶ交流の道であった。朝廷や貴族との結びつきから始まった都との交流は、「鯖街道」の往来を通じて、市民生活と結びつき、街道沿いに社寺・町並み・民俗文化財などによる全国的にも稀有なほど多彩で密度の濃い往来文化遺産群を形成した。

「鯖街道」をたどれば、古代から現在にかけて1500年続く往来の歴史と、伝統を守り伝える人々の営みを肌で感じることができる。

若狭街道 ー御食国若狭の原点と鯖街道のメインルートー

若狭と畿内を結んだ街道、いわゆる鯖街道のうち、最大の物流量を誇った若狭街道沿いには、古代の首長墳墓群から近世の宿場町まで、御食国若狭と鯖街道を代表する文化財が点在している。

若狭は古墳時代、宮中の食膳を司る膳臣（かしわでのおみ）が治めた国であるといわれ、「御贄」や「御調塩」を都に貢納する御食国のひとつであった。膳臣一族の奥都城とされる脇袋古墳群をはじめとする古墳群は近江国との国境に源流を持つ北川沿いに築かれており、北川沿いに開発された若狭街道では、古墳群に囲まれるように都との往来が脈々と行われている。

若狭街道は軍事上も大きな役割を果たしており、戦国時代には、織田信長が豊臣秀吉や徳川家康を引き連れ、この街道から越前朝倉攻めに向かった。後の天下人たちが意気揚々と通った出世街道ともいえる道である。

近世中期以降、街道最大の中継地となった熊川宿では問屋たちが、小浜の仲買が送り出した大量の物資を馬借や背負に取り次ぎ、京都などに運ばせた。一日千頭の牛馬が通ったとも言われる宿場町は馬借や背負で大いに賑わった。現在も塗り壁の商家や土蔵など多数の伝統的建造物がのこる旧街道筋では、神社の祭りには豪勢な山車が繰り出し、盆には京都から伝わった盆踊りが踊られるなど当時の宿場の賑わいを伝えている。



重要伝統的建造物群保存地区若狭熊川宿

街道沿いの集落には道標や街道松などの遺物が点在するほか、六斎念仏や祇園祭、地藏盆など京都伝来の民俗行事が守り伝えられており、街道の歴史的景観を彩っている。

鯖街道の起点 ー湊町・小浜の賑わいー

街道の起点である湊町・小浜は、海外や日本海沿岸各地とつながる「海の道」と、都とつながる「陸の道」の結節点として、様々な物資や人、文化が集まる一大港湾都市であった。室町初期には象やクジャクなど珍奇な動物を積んだ南蛮船が日本で初めて上陸し、京都までの街道をひと月かけて運ばれた珍獣たちは、人々を大いに驚かせたという。



初めて象が来た港の図(小浜市蔵)

大きな交易利得を誇った小浜湊は、中世には禁裏御料所ともなっており、宮中や都と間に深いつながりを持っていた。歴代の国主や廻船業で栄えた豪商たちのもと、津軽十三湊の安倍氏など北方交易の人々も加わり、国内外との盛んな交易や文化交流が展開されていた。

近世初頭には、小浜藩主京極高次によって小浜市場が整備され、流通の一大拠点が築かれた。「鯖街



道」という通称は、この市場の記録「市場仲買文書」に残る「生鯖塩して担い京に行き仕る」という一文に由来するといわれる。「一塩」された若狭の海産物は、京都に運ばれ「若狭もの」、「若狭一汐」として珍重され、今に至っている。

この地域には、廻船問屋の豪華な邸宅・庭園や、桃山時代の世界図及日本図屏風、南蛮渡来の工芸技術に倣って発展した若狭塗などが伝わっているほか、近世の商人町・小浜西組を中心とする城下町では、京都祇園祭の系譜をひく小浜放生祭の華やかな山車や芸能が繰り広げられ、南蛮貿易や日本海交易で繁栄した湊町・小浜の雰囲気は今に伝えている。

**針畑越え 一最古の鯖街道の歴史的景観一**

最大の物流量を誇った若狭街道に対し、古代、若狭国府が置かれた遠敷の里から、針畑峠を越えて朽木を経由し、京都鞍馬に向かう針畑越えの道は、険しい道のりではあるが若狭と京都を結ぶ最短ルートとして盛んに利用された。

若狭人たちは、一塩した鯖を背負い、「京は遠ても十八里」、京都まで遠いとはいってもせいぜい十八里（72キロ）と言いながら、急峻な峠をせせと越えていったという。ブナ林が広がる近江との国境・上根来の山中には、かつて峠を行きかかった人々の足跡によって深くえぐられた山道が続き、山道に残された石積みの井戸や地蔵などが、旧街道の風情を色濃く示している。



針畑峠付近

また、この道には、峠を越えて若狭にやってきた兄弟神、海彦・山彦の伝説が語り継がれおり「一番古い鯖街道」とも言われている。峠を越えて先に若狭に鎮座した弟神は、街道沿いの若狭彦神社に奉られ、遠敷の神様が東大寺二月堂の創建に際して若狭の水を送ったという伝説にちなんだ神事、お水送りが現在に伝わっている。街道沿いにはお水送りをを行う若狭神宮寺のほか、若狭国分寺や多田寺、明通寺など、天皇や貴族に庇護された、創建を古代に遡る古刹・仏像が集積しており、奈良・京都とのつながりを色濃く示す歴史的景観を形成している。

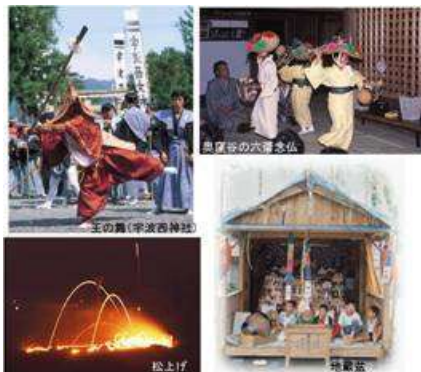
**若狭の浦々に続く鯖街道 一都の祭りや伝統を守り伝える集落一**

中世、湊町として栄えた気山から若狭街道までを結ぶ丹後街道や、古くから廻船や漁業で栄えていた田鳥浦から若狭街道へと抜ける鳥羽谷もまた、諸国から運ばれた物資や、若狭湾や三方五湖の幸を熊川経由で都に運んでいる。田鳥をはじめとする若狭の浦々では、豊富にとれた鯖などの海産物を長期食用するために発達した「へしこ」や「なれずし」などの加工技術が、街道の歴史の中ではぐくまれ、独特の食文化として今も生きている。

これらの街道沿いの集落には、王の舞や六斎念仏など都から伝わった民俗行事が数多く残っており、それぞれ集落ごとの特色を加えながら守り伝えられている。王の舞の多くは4月初旬から5月にかけて行われ、若狭の春の風物詩として親しまれている。

小浜から南川沿いに南下し、京都にいたる周山街道沿いの集落では京都の愛宕神をまつる火伏せの祭り松上げが行われており、次々に投げ上げられる松明の炎が若狭の夏の終わりを彩っている。

都との往来を通じてもたらされ、若狭に広く根付いた民俗行事は、現在も四季折々に行われ、若狭独特の歴史的景観を形成している。



## ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ(※3)	文化財の 所在地 (※4)
	若狭街道 御食国若狭の原点と鯖街 道のメインルート			
1	かみなかこふんぐん 上中古墳群	国史跡 他	<p>若狭町上中地域に所在する古墳群の総称。北川に沿って、脇袋古墳群、天徳寺古墳群、日笠古墳群と3つの首長古墳群を形成する他、北川の支流である鳥羽川流域にも首長に準じる規模の古墳が分布している。西塚古墳からは朝鮮半島との交流を示す副葬品が出土している。</p> <p>首長墳については、前方後円墳及び大型円墳の形態をとり、奈良時代、若狭を支配した膳臣(かしわでのおみ)一族が被葬者であると推定されている。膳臣は天皇の食を司る役を担った一族であり、御食国の原点を示す史跡。</p> <p><u>脇袋古墳群</u> 西塚古墳(国史跡)、上ノ塚古墳(国史跡)、中塚古墳(国史跡)からなる。古墳群の背後に膳部山があり、膳臣との関係がうかがえる。また、膳部山上には、地元料飲業者が昭和60年「膳神社」を建立。</p> <p><u>天徳寺古墳群</u> 十善の森古墳(県史跡)、丸山塚古墳(町史跡)からなる。</p> <p><u>日笠古墳群</u> 上船塚古墳(国史跡)、下船塚古墳(国史跡)、白鬚神社古墳(市史跡)からなる。</p> <p>その他、向山古墳群・大谷古墳(町史跡)・城山古墳(町史跡)など。</p>	若狭町 小浜市
2	おこづせいえんいせき 岡津製塩遺跡	国史跡	<p>若狭の海岸では土器に海水を入れ、煮詰めて塩を生産した製塩遺跡が多数確認されている。平城京からは若狭の調塩の木簡が数多く発見されており、奈良時代、若狭は重要な塩の供給地であったことを示している。岡津製塩遺跡の土器は大型で、大量の塩が官営工房で生産されていたことが推定されている。</p>	小浜市
3	鯖街道(若狭街道)	未指定 (史跡)	<p>若狭と京都をつないだ主街道、いわゆる「鯖街道」のうち最も物流量が多かったとされるメインルート。小浜市場を出た大量の物資は、熊川宿の間屋に一手に中継され、朽木、大原を経て京都出町柳に運ばれた。街道松や道標など、街道の風情を伝える遺物が点在している。</p> <p><u>道しるべ(日笠、三宅)</u>(町指定(史跡)) 若狭街道と敦賀道(丹後街道)の分岐点の日笠、若狭街道沿線の三宅集落にある江戸時代の石造物</p>	小浜市 若狭町



4	くまがわじゆく 熊川宿 重要伝統的建造物群保存 地区	国重伝建	<p>若狭街道ルート上の物流の中継拠点。近江国との国境に接し、軍事上、物流上の要衝として重要な役割を担った宿場町。秀吉から若狭国を与えられた浅野長政が関所を置き、天正17年(1589)に諸役免除の判物を出して商家を集め、問屋街と宿場を整備し、近世的な宿場町として発展する礎を作った。小浜市場と連携した問屋が、馬借や背負を手配し、小浜港に揚がった諸藩の蔵米や、昆布、鯨などを京都に運ぶ中継地として活況をみせた。</p> <p>現在の熊川の旧街道筋には、塗り壁の商家や土蔵など多数の伝統的建造物が保存され、当時の宿場の賑わいを伝えている。</p> <p><small>おぎの</small> <u>荻野家住宅(国重文(建造物))</u> 屋号を倉見屋と号し、代々人馬継立の運送業を行う問屋を営んでいた。主屋は熊川宿最古の町屋であり、主屋に隣接して街道に面して建つ荷蔵など、物流で栄えた熊川宿の中核であった問屋の姿をよく表している。</p> <p><small>へんみ</small> <u>旧逸見勘兵衛家住宅(町指定(建造物))</u> 熊川村初代村長逸見勘兵衛の住居跡。造り酒屋を営んでいた主屋と文庫蔵からなる。江戸時代末期に建てられた伝統的な町屋の外観は当時の宿場町の風情をよく伝えている。</p> <p><u>熊川番所(町指定(建造物))</u> 熊川宿の南端(近江寄り)に設けられていた番所を復元した建造物。関所として「入鉄砲出女」に対する厳しい統制と物資への課税が行われていた。</p> <p><small>とくほうじ</small> <u>得法寺(未指定(史跡))</u> 室町時代にこの地の領主であった沼田氏の菩提寺。元亀元年(1570)越前朝倉攻めに際し、信長に従っていた徳川家康は得法寺に宿泊、境内には「家康腰かけの松」が残る。鯖街道が軍事上も重要な役割を果たしていたことを示す。</p> <p><u>白石神社(未指定(史跡))</u> 5月3日に行われる祭礼では京都祇園祭を模した豪華な見送幕(県指定)を具えた山車が巡行し、かつて熊川宿を賑わした京の華やかな文化を感じさせる。</p> <p><small>おくらみち</small> <u>御蔵道(未指定(史跡))</u> 江戸時代初期以降、熊川から小浜へ流れる北川を使った水運の開発が幾度かなされた。小浜から北川を遡って運ばれてきた藩米を、小浜藩の蔵屋敷に運ぶために使われた道。</p> <p><u>てっせん踊り(未指定(無形民俗))</u> 京都の八瀬大原から熊川に伝わったといわれる民踊で大正初めころまで踊られていた。平成9年(1997)、熊川地区住民が、この踊りを伝えてい</p>	若狭町
---	-------------------------------------	------	---	-----

			<p>た京都「一乗寺郷土芸能保存会」との交流を始め、翌年、熊川でも80年ぶりに復活させた。鯖街道を通じて若狭に伝わり、根付いた文化のひとつで、熊川で途絶えたものが再び街道を通じた文化交流により復活した。</p> <p><u>熊川葛の製作技法(未指定(工芸技術))</u> 熊川葛は古くは17世紀ころから京都で売買されていた。良質な葛として江戸時代の儒学者頼山陽にも讃えられた。純度の高い熊川葛は谷川で寒ざらしされる。その技術は地元の振興会により、伝え続けられている。</p>	
5	みやけ 三宅の火の見やぐら、 火の見やぐら倉庫	国登録 (建造物)	<p>旧若狭街道沿いの三宅地区の集落にある江戸時代の建造物。愛宕神社は京都の愛宕山上にあり、火除けの神として街道沿線各地に勧請された。内部は愛宕地蔵をまつる地蔵堂が置かれ、街道沿いの農村の火伏信仰と日常生活を感じさせる。</p>	若狭町
6	瓜割の滝	町指定 (名勝)	<p>旧若狭街道沿いの天徳寺境内奥の湧水から生ずる滝。周辺は「水の森」と呼ばれ、夏でもこんこんとわき出し、旅人の渴きを潤している。また、古くから修験者の修行地として神聖な地とされ、不動明王像(鎌倉時代・若狭町指定)が祀られている。</p>	若狭町
	鯖街道の起点 湊町・小浜			
7	おばましぐみ 小浜西組 重要伝統的建造物群保存 地区	国重伝建	<p>小浜市場の西側は、寺町、商家町、茶屋町として整備された。近世前期の古い町割りに伝統的建築物や文化財が数多く残る地区。南蛮貿易と日本海交易で繁栄した港町・小浜の賑わいを伝える。</p> <p><u>旧料亭酔月(未指定(建造物))</u> 明治初期に建てられた料亭。茶屋町の中核的な料亭として存続した茶屋町の代表的な家屋。</p> <p><u>旧料亭蓬嶋楼(未指定(建造物))</u> 明治初期に建てられた料亭。酔月とともに、小浜西組の茶屋町の代表的な伝統的建造物。</p> <p><u>旧旭座(市指定(建造物))</u> 港町として栄えた小浜には数多くの能舞台や芝居小屋があり、能・狂言、芝居興行が行われていた。西組の商家町に建てられた旭座はその一つで、明治後期の建築。</p>	小浜市



8	おぼまいちば 小浜市場	未指定 (伝建)	<p>慶長12年(1607)に若狭国守護京極高次が湿地を埋め立てて市場として開発整備し、鯖街道の起点となった。海産物の集荷業者や問屋、加工、小売業者等の商業関係者や廻運業者などによる商人町が形成されていた。背後の南川河口には廻船・漁船の係留所が設けられ、ここで水揚げされた物資や魚介類は若狭街道を經由して京都に運ばれた。</p> <p>江戸時代初期から明治時代の記録「市場仲買文書」には「生鯖塩して担い京へ行き仕る」との記載があつて「鯖街道」を象徴する記録となっている。現在も、上市場・下市場・狭市場の名称が残され、かつて石敷きであった幅の広い通路を囲むように問屋や商家が残り、市恵比寿神社が中央にあり、古くは市の塔(県指定)(小浜市和久里)もここにあった。</p>	小浜市
9	のちせやまじょうあと 後瀬山城跡・同館跡	国史跡	<p>海に面し、山裾には丹後街道が走る要害の地に築かれた後瀬山城は、大永二年(1522)、若狭守護武田元光が築城し、京極高次による小浜城築城が開始されるまでの約80年間、歴代若狭国主の城であった。</p> <p>若狭武田氏は応仁・文明の乱までは、京都に居住し、室町幕府を支えるとともに、都の一流の文化人・公家たちと交流し、和歌・連歌などの文芸をたしなんでいた。元光が後瀬山に築城し、若狭に常住するようになってからは、都の戦乱を避けた文化人たちが、武田氏を頼って多く若狭を訪れた。館では都の連歌師を迎えてしばしば連歌会が行われた。</p> <p>室町時代末期の連歌師・里村紹巴の若狭を訪れた際の紀行文には、紹巴が朽木、熊川を経て街道をたどって小浜に入り、武田館にて7代目信豊・松の丸に面会したという記事が記載されている。街道を通じて若狭に入ってきた都の洗練された文化は後瀬山城に集い、若狭に文芸の花を開かせた。</p>	小浜市
10	きゅうふるかわやべつてい ていえん 旧古河屋別邸、庭園	県指定 (建造物)	<p>近世、小浜の廻船問屋として栄えた豪商・古河屋の別邸。松前の海産物や東北・北陸の米等を小浜へ、そして京阪へ集散する廻船問屋を本業とし、酒・醤油の醸造、金融業を兼業し、藩の御用達をつとめた豪商であった。</p> <p>藩主のお成りのために造られた庭園とその庭を広く見せるために緑の角にあるべき柱が取除かれているなど、高度な建築様式で建てられており、日本海交易の物流拠点・小浜湊の繁栄ぶりを今日に伝える。</p>	小浜市
11	せかいおよびにほんず 世界及日本図 はちきよくびょうぶ 八曲屏風	国重文 (歴史資料)	<p>桃山時代、南蛮人が請来した地図をもとに描かれたものと考えられる。旧小浜の廻船問屋として栄えた豪商の家に伝来したもので、世界に開かれた湊として繁栄した小浜を象徴する文化財。</p>	小浜市

1 2	小浜の祇園祭礼群 <small>ぎおんさいれい</small>	県無形民俗 他	<p>江戸時代、湊町の繁栄を祈り、京都祇園祭礼をまねて、小浜城下で始まった都市型祭礼。棒振り、神楽、獅子舞などの演し物は広く若狭各地で行われており、京都から伝わり、小浜の町衆の手で洗練・発展された芸能は、周辺農漁村にも伝わり、広く伝承されている。</p> <p><small>おばまほうぜまつり</small>  <u>小浜放生祭</u> (県無形民俗) 若狭地方最大の秋祭り。棒振り大太鼓・神楽太鼓・三匹獅子舞・山車など華やかな出し物が繰り出す。江戸時代、廣嶺神社の祇園祭の練物行列の出し物が八幡神社の放生祭に移り、現在に至っている。</p> <p><small>ひろみね</small>  <u>廣嶺神社の祇園祭</u> (市無形民俗) 500年以上続くとされ、神輿のほか、他の祭礼ではあまり見ることのない、障子鉾や鎌鉾がでる。鎌鉾は鎌倉時代の京都祇園祭にも出ていたといわれる。廣嶺神社には江戸時代の祇園祭の祭礼行列を描いた<u>小浜祇園祭礼絵巻</u> (市有形民俗) が伝わり、城下町・湊町として繁栄した小浜の町人たちの経済力を背景に発展した祭礼の華やかさ、趣向の面白さを知ることができる。</p> <p><u>お城祭り</u> (未指定(無形民俗)) 小浜藩祖酒井忠勝を祀る小浜神社の例祭。廣嶺神社の祇園祭の練物行列に出ていた<u>雲浜獅子</u> (県無形民俗) や棒振り大太鼓、神輿などが繰り出す。</p> <p><small>にしづしちねんまつり</small>  <u>西津七年祭</u> (県無形民俗) 古代末期から港として発達したとされる西津地区に伝わる祇園祭礼の流れを汲む祭。神輿の巡幸、棒振り大太鼓、神楽太鼓、太刀振りなどの都市型芸能に加え、漁師町西津らしく、船形模型の巡行など海に根差した祭礼が守り伝えられている。</p>	小浜市
1 3	和久里壬生狂言 <small>わくりみぶきょうげん</small>	国選択	<p>京都壬生寺の壬生大念仏狂言の流れを汲む無言の仮面劇。小浜城下町の市場近くに置かれた「市の塔」と呼ばれる宝篋印塔の供養のために始まったといわれる。現在は市の塔が移された和久里地区<small>さいほうじ</small>西方寺で7年に一度行われる。</p>	小浜市
1 4	若狭塗 <small>わかさぬり</small>	未指定 (工芸技術)	<p>若狭塗は、慶長年間(1596～1614)、小浜の豪商組屋六郎左エ衛門が国外より入手した色漆塗の盆(若狭盆)を城下の塗師松浦三十郎が模して製作したことに始まった。最初は菊塵塗とも呼ばれた。これに改良工夫を重ねて卵殻・研ぎ出しの技法が完成され、藩主が「若狭塗」と命名して、小浜藩の基幹産業として奨励し職人を保護した。江戸初期に青森県弘前市に職人が移住し津軽塗の技術改良を行った記録が弘前にある。明治時代以降は、和食文化の基礎ともいえる塗箸の生産が主流となり、国内シェアのほとんどを若狭塗箸が占めている。</p>	小浜市



15	はがじ 羽賀寺	未指定 (史跡)	<p>靈龜 2 年(716)、元正天皇の勅命で行基が創建したと伝えられる真言宗寺院。</p> <p>本堂(国重文)は、室町中期二度の火災に遭ったが、御花園天皇の勅命を受けて奥州十三湊の日本将軍安倍康季が再建。東北との北方交易に伴い、政治・文化面での交流も行われていた。元正天皇の御姿を写したとされる本尊木造十一面観音立像(国重文(彫刻))や、羽賀寺を長く保護した津軽安倍氏との関係を伝える木造安倍愛季・秋田実季坐像(県有形(歴史資料))などが伝わる。</p>	小浜市
16	ほんきょうじ 本境寺	未指定 (史跡)	<p>本境寺は、中世小浜の廻船問屋 組屋(組氏)と鼠屋(関戸氏)が大壇越となって創建された寺院である。男鹿の豪族安東愛季の代官となった関戸氏がこの寺を宿所として北方の産物を都へ運び入れ、若狭守護職武田信豊へも戸館馬(青森産馬)を献上している。応仁の乱の時には京都の本山の疎開寺院として考慮された山号が付けられており、寺伝来の仏画は日蓮宗文化財として都にもない貴重な絵画となっている。都との深い関係と中世日本海交易を地で行く寺院である。</p>	小浜市
	はりはた 針畑越え 最古の鯖街道の歴史的 景観			
17	はりはた 鯖街道(針畑越え)	未指定 (史跡)	<p>鯖街道のうち最も古いといわれるルート。この峠は、根来坂とも呼ばれ朽木の針畑へ超え、京都の大原経由で洛中へ入った。遠敷から若狭彦神社、神宮寺、鶉の瀬を経て、上根来集落から針畑峠に向かう古道が続く。戦国時代、越前朝倉攻略の際、徳川家康はこの峠道を越えて京に戻った。ブナ、トチノキなど夏緑広葉樹林が広がる山中には、都からやってきた神々の伝説が残るゴザ岩や、石積みの井戸や苔むした地蔵など、かつて峠を行きかたつた人々の気配が感じられる古道景観が残る。標高は高いが、都直結の最短ルートとして盛んに利用された。</p>	小浜市
18	かみねごりしゅうらく 上根来集落	未指定 (伝建)	<p>北近江と若狭の国境に接し、遠敷谷の最奥 300 メートルの山腹斜面に形成された集落。茅葺屋根の民家や稲木が残る。針畑越えの登山口となっており、江戸時代には街道の背負の取次を行っていた。</p>	小浜市
19	おにゅう まちな 遠敷の町並み	未指定 (伝建)	<p>若狭街道と根来道の分岐点に広がる町並み。古代には郡家が置かれ、都への御贄や調塩を送り出した。若狭姫神社(かつての遠敷明神)の門前町として建武元年(1334)には遠敷市場が開設され、熊川以前に物流の拠点となっていた。付近には国分寺や国府跡などがあるかつての若狭国の中心地であり、交通の要衝であった。</p> <p>江戸時代中頃には北前船で運ばれた北海道・東北の瑪瑙石の加工が盛んに行われ、遠敷</p>	小浜市

			<p>で加工された若狭メノウは京都や大阪に大量に出荷された。</p> <p>現在、若狭姫神社の門前沿いと丹後街道沿いには明治以降の伝統的な町屋が建ち並び、若狭彦神社、姫神社の例祭遠敷祭には氏子住民による棒振り太鼓や神楽太鼓が繰り出す。</p>	
20	みずおく お水送り	未指定 (無形民俗)	<p>遠敷明神が東大寺二月堂の開創法要に遅れ、行法に感激して若狭の水を送ったという伝説にちなみ、毎年3月2日に神宮寺の閼伽井で汲んだ水を鵜の瀬から流す儀式。この水が10日後の3月12日、二月堂の脇にある若狭井から汲み上げられ本尊に香水として供えられる。若狭と奈良の深い関係や、若狭の水の神聖さを示す行事。</p>	小浜市
21	遠敷の里の 古代中世の社寺・仏像群	国史跡 他	<p>「最も古い鯖街道」と呼ばれる街道沿いの遠敷地域には、峠を越えて若狭に降り立った若狭彦神を祀る若狭彦神社をはじめ、奈良時代に天皇の勅願で建立された寺院など、創建を古代に遡る社寺が多数集積しており、奈良や京都とのつながりを色濃く残す歴史的景観を形成している。</p> <p><small>わかさひこじんじゃ わかさのくにいちのみや かみしや</small> 若狭彦神社(若狭国一宮・上社)(県有形(建造物)) 奈良時代に小浜市下根来の白石に垂迹した若狭彦(比古)神を祀る。この神社は古代に若狭国総統治のために迎えられ、若狭国総鎮守社となり後年一宮となった。祭神は彦火々出見尊。所蔵する詔戸次第(国重文)には、若狭国へ赴任する国守(若狭守)が京の都から遠敷までの路程を詠んだ「山途申次第」があり、都から近江国(湖西)を経て若狭に入る道筋や景色が記録されている。</p> <p><small>りゅうぜんく</small> 竜前区 銅造薬師如来立像(国重文(彫刻)) かつて若狭彦神社の神仏習合の本地仏として神社の境内に奉られていた仏像。鎌倉時代の宝治2年(1248)に造られた。優れた鑄造技術により造られた都作の仏像。</p> <p><small>わかさひめじんじゃ きゅうおにゅうじんじゃ しもしや</small> 若狭姫神社(旧遠敷神社・下社)(県有形(建造物)) 奈良時代の遠敷には郡家が置かれ、郡の中心神として奈良の「お水取り」で有名な遠敷明神がまつられていた。同社には、いまも遠敷神社の額が伝わるが、その後二宮若狭姫神社となり、彦火火出見尊の妻である海神の娘、豊玉姫が祭神となった。</p> <p><small>しらいしじんじゃ うせ</small> 白石神社・鵜の瀬(未指定(史跡)) 若狭一の宮の元宮・白石神社は、唐人の姿をした彦火火出見尊が垂迹したと伝わる地。東大寺初代別当良弁僧正の出身地とも伝えられる。「お水送り」において奈良に向けて香水が送られる地。若狭の食を育む豊かな水を象徴する地でもある。</p>	



			<p><u>若狭神宮寺(未指定(史跡))</u> <small>じんぐうじ</small> 和同7年(714)僧滑元の開創。若狭彦神の人身離脱により創建された寺院として『類聚国史』に記載がある。東大寺別当良弁の出身地とも伝えられるほか、「東大寺要録」の記録どおり、若狭の水を奈良東大寺二月堂に送る「送水神事」を続けており、また境内から平城宮第二次朝堂院様式の瓦が出土し、奈良と若狭の深い関係を顕著に示す寺院。<u>木造男神坐像・女神坐像(国重文(彫刻))</u>を祀っている。</p> <p><u>多田寺(未指定(史跡))</u> <small>ただじ</small> 天平勝宝元年(749)孝謙天皇の勅命により僧勝行が創建されたと伝えられる真言宗寺院。勝行は「東大寺三綱牒」にその名が見られ、奈良と若狭の関係の深さを示す。本尊<u>木造薬師如来立像と脇侍の木造十一面観音立像、木造観音菩薩立像(国重文(彫刻))</u>は、奈良～平安初期のもので都で技術を学んだ仏師の作。</p> <p><u>若狭国分寺(国史跡)</u> <small>こくぶんじ</small> 大同2年(807)創建。聖武天皇が諸国に建立した国分寺の一つ。所蔵する<u>木造薬師如来坐像(国重文(彫刻))</u>は、鎌倉時代の作。充実した体の表現と軽快な表現をみせる都伝来の作。</p> <p><u>小浴神社(若狭国惣社)(未指定(史跡))</u> <small>こみなみ そうじや</small> 惣社は平安時代後期に全国に建てられた神社で都との関係が最も強い神社である。小浴神社は、かつて「惣社」と呼ばれ、京の都から赴任する若狭国守に直接かかわる重要な神社であった。この神社に付属する八幡宮が、おそらく松永荘内にあった新八幡宮と考えられ、現在国宝に指定された絵巻群を伝えた神社として都の文化の伝播を顕著に示している。</p> <p><u>明通寺(未指定(史跡))</u> <small>みょうつうじ</small> 大同元年(806)、伏見宮領松永荘の中心地に開創された坂上田村麻呂創建と伝わる真言宗寺院。所蔵する<u>彦火火出見尊(山幸彦)と兄・海幸彦の神話を絵巻に表したもの。平安末期に後白河法皇が描かせ、若狭彦神社の所在する遠敷地区の新八幡宮に納めたと伝わる。現在は江戸時代に描かれた模本が別当寺である明通寺に所蔵されている。平安時代、宮廷の最先端の文化が若狭にもたらされていたことを伝える文化財。本堂、三重塔(国宝(建造物))は鎌倉時代の建立の県内最古の木造建造物。平安後期作の<u>木造薬師如来坐像、木造深沙大将立像、木造降三世明王立像(国重文(彫刻))</u>など貴族が帰依した中世密教寺院の様相を今に伝える。</u></p>	
--	--	--	---	--

	若狭の浦々に続く道 都の祭り・芸能を守り伝 える集落			
2 2	若狭の王の舞群	国選択 他	<p>中世、都の大寺社で奉納されていた芸能(王の舞、田楽、獅子舞など)が若狭に伝わり、地域に根づいて伝承されている。多くが荘園鎮守社の祭礼として伝わっている。王の舞は、京都ではほとんど見られなくなっている。街道を通じてもたらされた都の文化が、若狭では独自の形で受け継がれている。</p> <p><u>宇波西神社の神事芸能(国選択、県無形民俗)(若狭町)</u> 宇波西神社の氏子集落は三方五湖の周囲に散在する。例祭には中世芸能の古態をよく残している王の舞、獅子舞、田楽が奉納される。春日社領耳西郷の鎮守社宇波西神社に伝わる。</p> <p><u>闇見神社例祭神事(県無形民俗)(若狭町)</u> 新日吉社領倉見荘の鎮守社闇見神社に伝わる。王の舞は子供が担当し、振り袖や女物の帯を使った衣装が特徴的。</p> <p><u>天満社例祭神事(県無形民俗)(若狭町)</u> 尊勝寺領藤井保の鎮守社天満社に伝わる。王の舞は12歳までの男子が赤い狩衣と袴を着て舞う。</p> <p><u>多由比神社の例祭神事(県無形民俗)(若狭町)</u> 大炊寮領田井保の鎮守社多由比神社に伝わる。三方湖を祭礼船で渡る年もある。王の舞、獅子舞、田楽のほかに、中世芸能細男(せいのお)が変形したエッサカエツトウも演じられるのは稀少。</p> <p><u>椎村神社の祭り(県無形民俗)(小浜市)</u> 小浜市若狭地区に伝わる芸能。小浜湾に面したわずか12戸ほどの集落が守り伝えてきた。戸主の年齢順にネギ、獅子舞、王の舞等の役を担当する。</p> <p><u>石くら神社の王の舞(町無形民俗)(若狭町)</u> 若狭町小原の石くら(木へんに安)神社に伝わる王の舞。小学校低学年の男子が唐草や鶴の模様の素襖と袴を着て舞う。</p> <p><u>広嶺神社の祇園祭(町無形民俗)(若狭町)</u> 若狭町日笠広嶺神社の祇園祭で舞われる王の舞は宮世話の大人が務め、法被を羽織って鼻高面を額に乗せ、鉾を神輿の四隅で突き上げる動作をする非常に簡単なものが伝わる。</p> <p><u>天神社の王の舞(未指定)(若狭町)</u> 仁和寺領藍田荘の鎮守社天神社に伝わる。10歳前後の男子が赤茶色の狩衣と袴を着て舞う。</p>	小浜市 若狭町

			<p><u>日枝神社の王の舞(未指定)(若狭町)</u> 若狭町麻生野日枝神社に伝わる王の舞。小学生の男子が白い狩衣と袴を着て舞う。</p> <p><u>国津神社の神事(県無形民俗)(若狭町)</u> 伊勢神宮領向笠御厨の鎮守社国津神社に伝わる。王の舞は若者が赤い狩衣と括袴を着て舞う。王の舞の途中から始まる田楽と田植の舞の演者は舞い終わると全速力で王の舞を突き倒しに行き、突き倒すことが出来たらその年は大豊作といわれる。</p> <p><u>能登神社の王の舞(未指定)(若狭町)</u> 新日吉社領倉見荘の鎮守社能登神社に伝わる。王の舞は12歳くらいまでの男子が、頭には色髪を髪の毛のように長く垂らした独特の鳥甲をつけ、狩衣と括袴の下に女物の振袖、女物の帯をつけた独特の姿で舞う。</p> <p><u>天満宮の王の舞(未指定)(若狭町)</u> 若狭町海士坂天満宮に伝わる王の舞は小学生男子が、緋の着物に袴の姿で舞う。</p>	
23	若狭の六齋念仏群 ろくさいねんぶつ	国選択 他	<p>平安時代に京都で始まった六齋念仏が若狭に伝わり、現在でも20か所以上で行われている。鯖街道の終点、京都出町柳に干菜寺系六齋念仏の総本寺がある。若狭では街道沿いの集落から漁村にまで広く伝わっている。</p> <p>(主な六齋念仏)</p> <p><u>上中の六齋念仏(瓜生)(国選択、県無形民俗)(若狭町)</u> 若狭街道沿いの瓜生区に伝わる。鉦と太鼓と念仏に踊が加わる。</p> <p><u>上中の六齋念仏(三宅)(国選択、県無形民俗)(若狭町)</u> 若狭街道沿いの三宅区に伝わる。鉦と太鼓と念仏に踊が加わる。</p> <p><u>奈胡の六齋念仏(県無形民俗)(小浜市)</u> 小浜湾から山を隔てた奈胡地区に伝わる。集落で疫病がはやった時に、山の向こう側の漁村集落で行われていた六齋念仏を習い覚えて始めたといわれる。</p> <p><u>奥窪谷の六齋念仏(県無形民俗)(小浜市)</u> 南川沿いの集落に伝わる。盆だけでなく毎14日の六齋日に行われている。8月と9月の六齋念仏は、子供は黄色い衣装をつけ、大人はひよっとこなどの面をつける。</p>	小浜市 若狭町
24	地蔵盆 じぞうぼん	未指定 (無形民俗)	<p>京都から伝わった地蔵盆の風習が市内各地に残っている。8月23日、24日子供たちが集落の祠の地蔵をきれいに洗い、絵の具で化粧を施して祀り、鉦をたたいて道行く人に参拝を呼びかける。</p>	小浜市 若狭町



25	まつあ 松上げ	市無形民俗	京都から伝わった盆行事の一つ。名田庄から南川沿いにかけて行われる。愛宕講の火伏せの祭りとして行われ、京都の愛宕神社からもらってきた種火を使う。	小浜市
26	わかさのうくらざ しんじのう 若狭能倉座の神事能	県無形民俗	若狭地方には中世の早い時期に猿楽(能)が存在し、大和猿楽など近畿地方の猿楽芸団とかわりがあった。四座あったといわれる若狭の猿楽の中で「倉座」が発展し、変遷も経て現在まで続いている。江戸時代には藩主酒井氏の庇護を受け、若狭各地の多くの神社には能楽堂が建立され、神事芸能が奉納されてきた。	若狭町
27	みかたごこ 三方五湖	国名勝	<p>国名勝三方五湖は三方湖、水月湖、菅湖、久々子湖、日向湖の5つの湖とその周辺域、常神半島を含む若狭湾に面した海岸部から構成されている。海と繋がっている日向湖岸の日向浦や、常神半島の遊子、小川、神子(御賀尾)、常神は、鎌倉時代には漁業や製塩業、廻船業が盛んに行われ、海産物流通における大きな影響力を持っていた。これらの浦々から鯛やイワシ、アワビなどの海産物が「若狭の美物」として丹後街道を經由し若狭街道を使って都に送られていた。</p> <p>また久々子湖付近には、小浜の港が開発される以前、平安時代中期から鎌倉時代にかけての間、日本海航路の重要な港として利用されていた「気山津」があり、ここで荷揚げされた物資は若狭街道・熊川経由で都へと運ばれていた。</p> <p>さらに、江戸時代初期には三方五湖のうなぎは、「若州うなぎ」として京都で珍重されていた。江戸時代後期の記録には、熊川を通過して京都まで、街道沿いの宿場に置かれた生簀を使って、生きたまま京に運ぶという画期的な物流が行われていた。</p>	若狭町
28	へしこ、なれずしの製作 ぎほう 技法	市無形 (工芸技術)	<p>へしことは魚の糠漬けのことで、その昔、魚の腐敗を防ぎ、長期保存するための保存食として作られている。江戸時代の中期には始まっていたと伝わる。</p> <p>平城京から出土した若狭発の木簡には「すし」と書かれたものが残っている。若狭では鯛などの魚介を、塩や麴により発酵させて保存する加工技術が古くから編み出された。そうした保存技術によって、かつて大漁にとれた鯖を無駄にしない食文化が現在も受け継がれている。</p>	小浜市

## 構成文化財の写真一覧

### 1 上中古墳群



### 4 熊川宿 重要伝統的建造物群保存地区



### 2 岡津製塩遺跡



### (荻野家住宅)



### 3 鯖街道 (若狭街道)



### (旧逸見勘兵衛家住宅)



(熊川番所)



(御蔵道)



(得法寺)



(てっせん踊り)



(白石神社)



(熊川葛の製作技法)





5 三宅の火の見やぐら、火の見やぐら倉庫



7 小浜西組 重要伝統的建造物群保存地区



6 瓜割の滝



(旧料亭酔月)



(旧料亭蓬嶋楼)



(旧旭座)



10 旧古河屋別邸、庭園



8 小浜市場



11 世界及日本図 八曲屏風



9 後瀬山城跡・同館跡



12 小浜の祇園祭礼群 (小浜放生祭)





(廣嶺神社の祇園祭)



13 和久里壬生狂言



(お城祭り)



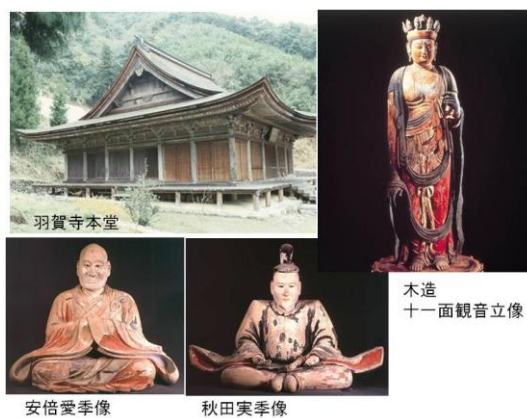
14 若狭塗



(西津七年祭)



15 羽賀寺





16 本境寺



19 遠敷の町並み



17 鯖街道(針畑越え)



20 お水送り



18 上根来集落



21 遠敷の里の古代中世の社寺・仏像群  
(若狭彦神社)



(竜前区 銅造薬師如来立像)



(若狭神宮寺)



(若狭姫神社)



(多田寺)



(白石神社・鵜の瀬)



鵜の瀬



白石神社

(若狭国分寺)





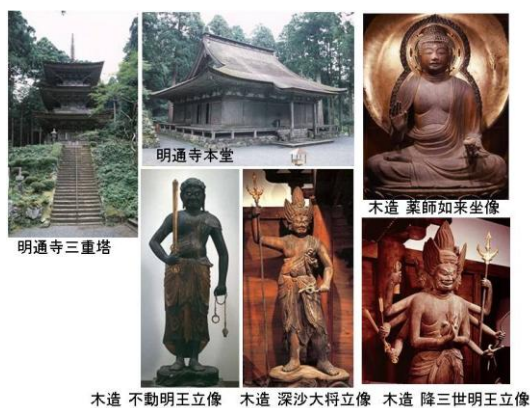
(小浴神社)



(間見神社例祭神事)



(明通寺)



(天満社例祭神事)



## 2.2 若狭の王の舞群 (宇波西神社の神事芸能)



(多由比神社の例祭神事)





(椎村神社の祭り)



(天神社の王の舞)



(石くら神社の王の舞)



(日枝神社の王の舞)



(広嶺神社の祇園祭)



(国津神社の神事)



(能登神社の王の舞)



(上中の六斎念仏 (三宅))



(天満宮の王の舞)



(奈胡の六斎念仏)



2 3 若狭の六斎念仏群  
(上中の六斎念仏 (瓜生))



(奥窪谷の六斎念仏)





24 地藏盆



27 三方五湖



25 松上げ



28 へしこ、なれずしの製作技法



26 若狭能倉座の神事能



## 日本遺産を通じた地域活性化計画

認定番号	日本遺産のタイトル
005	海と都をつなぐ若狭の往来文化遺産群 ～御食国若狭と鯖街道～

## (1) 将来像 (ビジョン)

認定地域である若狭の歴史文化は、古代から現代に至るまで、食との関係、多様な交流を切り離して考えることはできない。この歴史文化を象徴する日本遺産「御食国若狭と鯖街道」に誇りと愛着を持ち、当事者意識に基づく関わりを持ち、これを継承することは、本地域に関わる人々が幸せと地域の豊かさを実感して生きることができる暮らしを共創するものであり、美しい国土の形成に資するものとする。

そこで、日本遺産「御食国若狭と鯖街道」を基盤とした文化財の保存・活用の好循環を分野横断的・総合的に地域総がかりで取組むことで、文化財が着実に次世代に継承されるとともに、歴史的景観が保全され、認定地域のブランド価値が高まり、文化財とより共生するまち・暮らしが広がっている地域を将来像に設定する。将来像の実現を通じて、若狭の多種多様な豊富な文化財がこれからの時代を見据えて適切に保存・活用を進められることで、次世代へ着実に継承されるとともに、現在に生きる私たちのまち・暮らしの様々なシーンにおいて、新たに意味づけがなされ、新たな価値を有している状態を想定する。

その中で、文化財に関わる多様な関係者を広げるとともに、保存するのみではなく、文化財の様々な働きを高めることを基本姿勢として共有し、文化財の保存と活用による豊かな暮らしづくり・まちづくりに取り組む。

地域住民においては、地区の将来像を主体的に考える中で、文化財を地域の宝と認識し、自らの問題として文化財の保存と活用を進める動きが既に一部地区でみられており、この動きが横展開され、日本遺産のまちをより良くするための当事者意識に基づくシビックプライドが地域内に広がっている状態を目指す。

民間事業者においては、文化財の関わる産業が成立することが文化財の継承に繋がることを念頭に、行政や住民、事業者、文化財保存活用支援団体等が連携して、保存と活用によりビジネス機会拡大の効果を生みながら、歴史文化を活かした地域の魅力を高める持続可能な活動が実施されている状態を目指す。

そして来訪者においては、地域への来訪を通じて新たな発見を得るとともに、地域住民や民間事業者に対する地域の魅力の再発見・再評価の機会を提供し、地域の文化財の保存と活用に関する取組みの活性化とシビックプライド醸成の機会を提供し、来訪を通して地域の文化財と共生した暮らしが次世代への継承に貢献している状態を目指す。

地域の長期的構想との関連について、総合計画では、地域らしさのアイデンティティでは日本遺産を軸とし観光やシビックプライド醸成を図ることとしている。文化財保存活用地域計画では、御食国若狭からの発展を基本理念に置き、日本遺産が目指す方向性と一致させている。観光振興では、マスタープランにて、御食国若狭と鯖街道のストーリーを伝えることを基本方針に位置づけている。以上より、日本遺産が地域の様々な分野の長期構想において本地域の歴史文化の魅力を伝えるストーリーとしての重要な役割を担っており、分野を横断的に連携させ地域活性化を推進している。



(2) 地域活性化計画における目標

※各目標に対し、複数の指標を設定可

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること

指標①-A：日本遺産拠点の観光入込数（万人）

年度	実績					
	2021	2022	2023			
数値	45	57	75			
年度	目標					
	2024	2025	2026	2027	2028	2029
数値	79	83	87	91	95	99
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	食文化館・熊川宿等の日本遺産ガイダンス関連施設の前年比約5%の増加で設定。					

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること

指標①-B：有人ガイドまたは音声ガイドの利用者数（人）

年度	実績					
	2021	2022	2023			
数値	3,737※	3,694※	5,400 (見込み)			
年度	目標					
	2024	2025	2026	2027	2028	2029
数値	5,700	6,000	6,300	6,600	6,900	72,00
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	ガイドの利用者数の前年比約5%の増加で設定 ※音声ガイドは、2022年度以前は未作成で数値に含まれていない。					

目標②：地域において日本遺産のストーリーが誇りに思われること						
指標②－A：日本遺産を誇りに思う割合						
年度	実績					
	2021	2022	2023			
数値	70	70	74			
年度	目標					
	2024	2025	2026	2027	2028	2029
数値	75	75	75	75	75	75
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	祭事での市民への日本遺産にかかるアンケート調査 誇りを感じると回答した人の割合					

目標③：日本遺産を活用した事業により、経済効果が生じること						
指標③－A：日本遺産ブランド土産品の売上（万円）						
年度	実績					
	2021	2022	2023			
数値	—	238	839※			
年度	目標					
	2024	2025	2026	2027	2028	2029
数値	900	950	1,050	1,100	1,150	1,200
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	年間売上 50 万円の商品を 1 商品/年の開発相当 ※2023 年度は 4 月～2 月末までの数値。					

目標④：日本遺産のストーリー・構成文化財の持続的な保存・活用が行われること						
指標④－A：日本遺産の保存・活用に関する寄附額（万円）						
年度	実績					
	2021	2022	2023			
数値	77	—	158			
年度	目標					
	2024	2025	2026	2027	2028	2029
数値	150	150	150	200	250	300
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	2024 年からの 3 か年を直近の実績を維持し、2027 年の 3 か年で 50 万/年の増加					

目標⑤：地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること						
指標⑤－A：外国人旅行者宿泊数（人/年）						
年度	実績					
	2021	2022	2023			
数値	169	374	11,119			
年度	目標					
	2024	2025	2026	2027	2028	2029
数値	12,500	14,000	15,500	17,000	18,500	20,000
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	小浜市・若狭町の宿泊施設への外国人宿泊数が1,500人/年増加					

### (3) 地域活性化のための取組の概要

#### 【地域の現状】

認定地域の福井県小浜市・若狭町は、共同策定した歴史文化基本構想をもとに、個別市町の文化財保存活用地域計画（2020年・2021年認定）においても「御食国の継承」という理念を共有するとともに、観光マスタープラン（2022年策定）でも日本遺産ストーリーの活用を基本方針として、日本遺産を通じた地域活性化に取り組んでいる。認定以後、日本遺産ガイダンス施設等の整備とともに、プロジェクトリーダーによる構成文化財の宿泊施設の整備など、基盤整備を進めてきた。継続認定以後は、継続審査時に指摘事項であった案内看板・パンフレットの多言語化や、アクティビティと文化を組み合わせたコンテンツ開発などとともに、日本遺産を活用した商品開発と民間事業者との連携によるシビックプライドの醸成に取り組んできた。

#### 【これまでの主な成果】

##### ■プロジェクトリーダーによる収益事業の活性化

DMO(株)まちづくり小浜や(株)デキタにより、日本遺産ストーリーを活かした一棟貸しの分散型古民家ホテルの営業を継続しており、2020年度までに7棟を、2021年度以降に5棟を営業開始させることができた。(株)デキタを含む民間4社と若狭町で構成される熊川エリア開発会社「クマツグ」を設立(2022年)し、古民家開発やアウトドアアクティビティを整備する組織体制が整備され、熊川葛を用いた商品などの食品加工機能付きイベントスペースとして整備(2022年)されている。

##### ■非公開であった構成文化財の観光拠点化とシビックプライドの醸成

未活用かつ非公開であった構成文化財かつ県指定文化財「旧古河屋別邸」について、民間事業者により、カフェや若狭塗ギャラリー機能をもつ「GOSHOEN」として営業開始されており、日本遺産観光拠点の役割を担っている。さらに、所有者が高校生と連携して構成文化財「若狭塗」の技法を活用した商品開発し、その収益の一部は高校生の取組みに寄附されている。ここを拠点とした様々な普及啓発活動に加え、地域外からの観光客の来訪やNHK「ふるカフェ系 ハルさんの休日」の放映などの外部評価を受けて、シビックプライド醸成につながっている。整備費用は文化資源活用事業費補助金に活用しているが、運営費用は行政からの支援を受けず、自走している。

##### ■日本遺産ストーリーを活かした商品開発と経済効果の創出

道の駅の物販施設を「鯖街道ワンダーランド」というコンセプトで鯖街道の世界観を楽しむことのできる様々な仕掛けを導入しリニューアル(2023年)することで、売上が大きく向上しており、2023年度は過去最高の売上となる見込みである。また、日本遺産鯖街道オリジナル商品をDMOと地域事業者が連携して開発して、ヒット商品として販売を継続できている。

##### ■構成文化財等の多言語化

観光庁発表「地域観光資源の英語解説文作成のための専門人材」に委託し、全構成文化財の英語解説文を作成し、説明看板に反映した。また、若狭歴史博物館や日本遺産ガイダンス施設の展示、音声ガイド、パンフレット、WEBサイトなどにおいても、多言語での情報提供できる環境を整備した。



## 【課題】

- 人口減少に伴い、文化財保存のための新たな資金調達、民俗行事・食文化・伝統工芸等の担い手の後継者や観光関連人材の不足などの課題が生じている。旅行形態やライフスタイルの変化により、神社仏閣の拝観や伝統食の需要等が縮小している。
- 過年度に整備した宿泊施設の次展開として、宿泊以外の滞在コンテンツの整備により、日本遺産ストーリーを体験できる機会とキャッシュポイントの創出が必要である。
- 観光情報に関するWEBサイトで取組みとともに増え情報が分散しており、インバウンドに関してはターゲットに届ける情報発信力の強化が必要である。交通アクセスが悪く、交通インフラの強化または移動自体に楽しむコンテンツの充実が必要である。

## 【今後の取組】

### ①御食国アカデミーの推進による人材育成・普及啓発・観光事業化

食に関わる歴史文化について、「来て・学んで・食べて・繋ぐ」をコンセプトに展開する御食国アカデミーに磨きをかけ、全ての事業の下支えとなるシビックプライドの醸成に取り組む。過年度まで注力した学生に対する普及啓発に加えて、社会人に対する人材育成プログラムを提供する。認知度向上や観光ガイド育成に留まらず、文化財保存活用支援団体が多様な関係者をつなぐコーディネーターとしての役割を中核的に担うなどの手法にて、地域内外のプレイヤーとの協働で新たな資金調達や商品開発、情報発信に発展させる。これにより、多様な関係者の連携を高め、人口減少下においても持続可能な体制を構築する。

### ②鯖街道沿線各所の滞在コンテンツの創出・連携強化・販売力強化

宿泊施設と連携した新たなレストランやフロント、シェアキッチンの設置、町歩きをより楽しむための歴史的町並みの古民家への出店誘導、ガイドツアーや体験の宿と連携した提供等により、宿泊以外の滞在コンテンツの充実と連携を深める。地域のコミュニティで継承され、誇りでもある祭について、担い手の減少への課題に対応するため、観光客も見学や体験ができるコンテンツ整備により、文化財の新たな関わりと価値を生み、祭りの継承と文化観光を推進する。これらの一体的な発信のため、コンテンツ整備とともに増えたWEBサイトを見直し、リニューアルする。

### ③「御食国若狭と鯖街道」の食文化の継承と発展

食文化に係る調査や発信し、食文化に対するシビックプライドを高める取組みを継続する。食文化の日本遺産ストーリーやサブストーリー、100年フード認定を活かした商品開発・販売を継続するとともに、伝統食や伝統工芸でも歴史文化を活かした付加価値を高めた商品を開発する。これにより、地域の食文化にかかる消費拡大とともに、食文化の担い手との協働、後継者の確保、食文化の継承につなげる。

### ④広域および地域内の周遊促進、情報発信

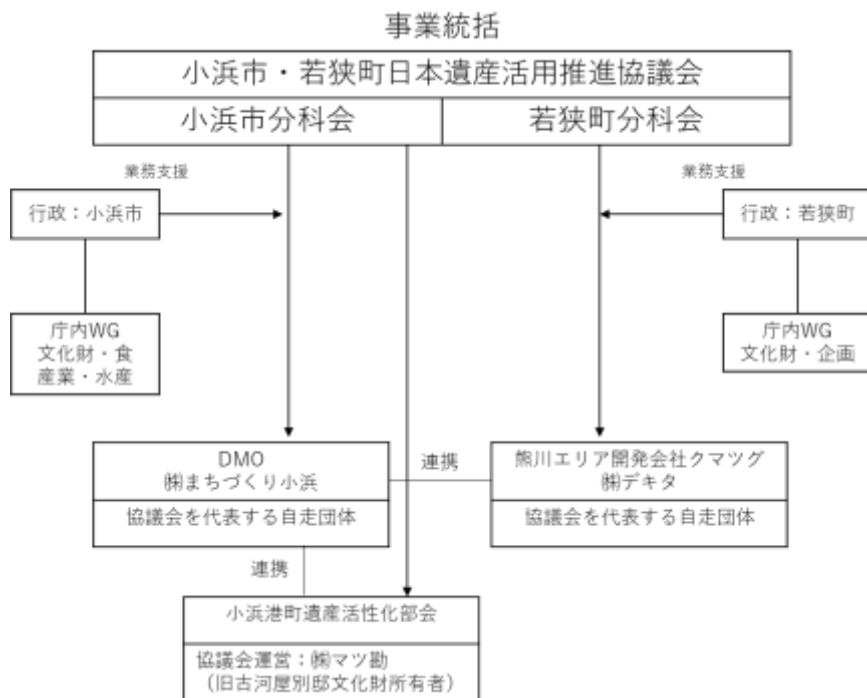
日本遺産ストーリーを活用して広域で造成した外国人富裕層向け長期滞在ツアーをもとにインバウンドツアーの営業・販売を進める。二次交通が地域周遊の課題となることから、鯖街道サイクリング・ウォーキング等の移動をアクティビティで楽しめる環境整備と、神社仏閣の共通チケット導入や音声ガイドの活用等により地域周遊を促進する。ドライブコースやサイクリングコースで連携している日本遺産認定地域エリアとの連携を発展させる。これにより、広域連携による魅力向上等による情報発信力の向上につなげる。

#### (4) 実施体制

小浜市・若狭町日本遺産活用推進協議会が日本遺産を通じた地域活性化に関する事業を統括している。福井県、小浜市、若狭町の行政関係者のほか、小浜商工会議所、DMO、観光協会、市民団体、重伝建協議会、地域まちづくり団体等を構成員とし、日本遺産「海と都をつなぐ若狭の往来文化遺産群 ～御食国若狭と鯖街道～」を軸とした、新たな往来・連携を活かした地域づくりを国内外に向け発信し、御食国若狭および鯖街道の自然・歴史・文化、さらにそれらを結ぶ街道を活かした観光ブランドの構築と広域交流による地域づくりに貢献していくことを目的に組織している。

小浜エリアにおいては DMO(株)まちづくり小浜、若狭エリアにおいては(株)デキタと同社が構成員のエリア開発会社(株)クマツグが協議会を代表する自走団体である。

小浜港町地域において新たな往来・連携を活かした地域づくりに関しては、小浜港町遺産活性化部会を設置している。部会運営の事務局運営は、構成文化財「旧古河屋別邸」の文化財所有者である(株)マツ勤が務めている。



#### [人材育成・確保の方針]

長期的な視点においては、学校・地域・事業者等が連携した地域の子どもへの普及啓発活動を通じて、シビックプライドの醸成していくことに重点を置く。義務食育と位置づけている就学前の園児、小学生、中学生全員が食を学び体験できる教育の継続をはじめ、広く学習機会を設けるとともに、高校生の探究活動では企業と協働での商品開発など、地域に貢献する機会の創出等によりシビックプライドを醸成する。

連携協定を結ぶ立命館大学の調査フィールドとしての受け入れや、福井県立大学での歴史文化の講義の継続により、大学生に対して日本遺産を通じた地域の魅力を発信する。

地域おこし協力隊や地域活性化企業人の制度活用も事業に応じて検討し、ノウハウや意欲のある人材を受け入れていく。

伝統工芸若狭塗では、インターンを長期で受け入れて後継者を育成する。若狭塗の文化財調査において、職人や問屋にも調査に参加してもらうことで、文化的価値の再認識や新たな観点での商品開発を促すというような新たな切り口での人材育成にも取り組む。

## (5) 日本遺産の取組を行う組織の自立・自走

### ■民間事業者による収益事業の継続

本地域においては、DMO(株)まちづくり小浜による「小浜町家ステイ」と(株)デキタによる「八百熊川」にて、いずれも構成文化財の重伝健エリアを中心として、一棟貸しの分散型古民家ホテルが営業されている。空き家で未活用であった伝統的古民家等を宿に改修し、鯖街道最大の宿場町や鯖街道の起点の歴史的町並みの中に泊まることができ、日本遺産ストーリーを体感できる滞在コンテンツとして機能している。直近3年間においても、新たに整備された4棟を含めて、現在では12棟まで整備が拡大している。

また、歴史的建造物の活用だけでなく、宿の滞在において、他の構成文化財を活かす取組みが実施されている。例えば、小浜町家ステイでは、構成文化財の寺の拝観や構成文化財のカフェで利用可能なチケットを宿泊者に配布している。八百熊川では、熊川エリアで古くから特産で構成文化財の熊川葛の商品開発をして、宿で提供している。

このような取組みにより、民間事業の収益事業の中で、歴史的建造物と構成文化財を連携させ、日本遺産ストーリーを体験するための取組みが実施されている。

従って、民間事業者による収益事業において、日本遺産のストーリーを体感できる機会を提供しているため、日本遺産ストーリーを体験できる事業を継続的に実施できる体制をとっている。

### ■日本遺産の地域活性化貢献の可視化による自治体からの支援継続

日本遺産の取組みは、コミュニティ活性化や産業振興につながっていることから、地域活性化に資する取組みであるという共通認識をエリア内で持つことで、自治体からの支援を継続する。例えば、構成文化財「旧古河屋別邸」の日本遺産の取組みを通じて、コミュニティの活性化がみられる。近年まで非公開であった構成文化財は、活用により地域の人々が集うカフェ・ギャラリーになり、地域外からの来訪や報道の外部評価を通じて、住民にとって地域の魅力の再発見とシビックプライド醸成につながっている。さらに、旧古河屋別邸の文化財所有者と小学生・高校生で、構成文化財若狭塗の技法を活用した商品を開発し、商品の発表・販売の場として旧古河屋別邸が利用されており、構成文化財の活用を通じてコミュニティの連携した活動が活性化している。

また、産業振興という点では、道の駅の物販施設や土産物に、日本遺産ストーリーを取り入れることにより、売上を伸ばしており、日本遺産の取組みが産業振興に貢献している。

以上のような日本遺産の取組みを継続するとともに、地域活性化の貢献の可視化により、自治体からの支援を継続する。

### ■ふるさと納税やクラウドファンディングの活用

2021年と2023年に、日本遺産にかかる保存と活用の取組みのためにふるさと納税型のクラウドファンディングを実施している。個別プロジェクトごとにクラウドファンディングを実施していくとともに、ふるさと納税全体の戦略や用途においても日本遺産を取り入れることを検討していく。



## (6) 構成文化財の保存と活用の好循環の創出に向けた取組

### ■一棟貸しの分散型古民家ホテル事業の継続

本事業においては、そのままでは保存が難しかった重要伝統的建造物保存地区の特定物件や登録文化財の歴史的建造物等を所有し、歴史的町並みの景観を保ち（保存）、一棟貸しホテルとして改修（活用）し、収益事業を実施している。近年もホテルの棟数を増やすことができしており、保存と活用の好循環を創出できている。今後も宿泊事業を継続するとともに、一棟貸しホテルに必要な機能を歴史的建造物に新たに導入するなどにより、保存と活用の好循環を持つ取組みを進める。

### ■構成文化財の保存と活用を目的としたふるさと納税等の寄附受付

2021年と2023年に、日本遺産関連の文化財の保存や活用に対するふるさと納税の寄附受付を実施している。今後は、文化財所有者に対して、文化財保存活用支援団体が伴走役になるなど、地域内の連携を高めて実施体制を強化して寄附を受け付けることも取り入れていく。寄附額を保存に用い、寄附を募る過程で返礼品メニュー開発が想定され、保存と活用の循環を創出する取組みと捉えている。

### ■食文化ストーリー構築や100年フード認定によるブランド化

食文化ストーリー構築に伴う食文化調査や100年フード認定過程において、その食文化の文化的価値の明確化・再認識された。食文化ストーリーでは若狭小浜小鯛ささ漬の調査報告書が料理人の目に留まり新商品開発につながり、100年フードでは若狭小浜醤油干が地元レストランにおいて100年フードブランドを活かして高単価商品として販売されている。このような調査・認定によって明確化した文化的価値の活用により、消費を拡大させ、食文化の保存と継承につなげる。

### ■構成文化財同士の保存と活用の掛け合わせ

構成文化財の旧古河屋別邸は、歴史的建造物の活用のひとつとして、若狭塗のギャラリー・ショップが設けられている。若狭塗が販売されることは、その産業を振興し、若狭塗の技術が保存・継承されることにつながる。一方、旧古河屋別邸の視点からみると、若狭塗が販売されることは、売上収入により、建造物の維持保存の財源確保となる。つまり、建造物の活用は伝統工芸の保存につながり、伝統工芸の保存が建造物の保存につながっている。このように構成文化財同士を組み合わせることで魅力を創出することで、保存と活用の好循環を生む。

### ■文化財を支える人との協働調査の実施

文化財の継承は、文化財を支える人に強い誇りが育まれていることが推進力になると認識している。文化財を支える人には、関わりを持つことで得ている情報や経験がある一方で、専門家や学芸員の学術的な知見に基づく文化的価値については知識がない場合がある。本地域の今後の取組みとしては、文化財の調査において、文化財を支える人になるべく調査に参加してもらい、文化的価値の理解と誇りの醸成し、保存の使命感と活用の意欲を高めることで、保存と活用の好循環による継承につなげたい。

例えば、若狭塗の市指定文化財にむけた調査においては、産業として若狭塗に関わる人とともに調査を行うことで、文化的価値を認識してもらい、技法の保存や新たな視点での商品開発への発展を図る。

(7) 地域活性化のために行う事業

(7) - 1 組織整備

(事業番号 1 - A)

事業名	地域プレイヤー連携促進事業		
概要	観光ガイドや文化財を活かす地域プレイヤーの組織化や、専門人材の確保により組織体制を強化する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	観光ガイド人材の育成とコンテンツ企画	ガイド紹介の窓口を行政から観光協会に移行し、サービス提供体制を強化するとともに、ガイドの高付加価値化に向け人材育成と企画を行う	観光協会
②	地域プレイヤーの組織化と活動実施	地域プレイヤーでチームを結成し、文化財のユニークベニューや催しの実施等を通じて、文化財所有者と地域プレイヤーの連携を強化する。	協議会
③	専門人材を受け入れによる環境整備	DMOの取組みと連動させて、インバウンドや歴史的な町並みを生かした知見やノウハウをもち、地域と協働する外部人材を確保する。	DMO
④	地域プレイヤーや文化財関係者の情報発信による連携促進	市民ライターが取材しローカルヒーローを紹介しているメディア等の運営により、地域プレイヤーの可視化と連携しやすい環境を整備する。	民間団体
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	観光ガイド回数（若狭の語り部が予約窓口）		82回
2022			59回
2023			57回
2024	観光ガイド回数（若狭の語り部と観光協会が連携し予約窓口を移行）		60回
2025			65回
2026			70回
2027			75回
2028			80回
2029			85回
事業費	2024年度：7,500千円 2025年度：12,100千円 2026年度：9,100千円		
継続に向けた事業設計	観光ガイドの提供が滞在時間と消費額を拡大するものであり、地域経済に貢献することから自治体からの支援を得るとともに、長期的にはガイドの高付加価値ツアーを企画造成し、収益を高める。		
事業費	2027年度：9,100千円 2028年度：4,500千円 2029年度：4,500千円		
継続に向けた事業設計	専門人材の受け入れによるノウハウを収益事業の売上向上につなげる		

(7) - 2 戦略立案

(事業番号 2 - A)

事業名	文化財保存活用地域計画実践事業		
概要	日本遺産と連動させている文化財保存活用地域計画の取組みの中心を担う文化財保存活用支援団体の計画事業を実施する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	文化財保存活用支援団体と連携した収益事業の実施	文化財保存支援団体が文化財所有者を支援して、文化財修理のクラウドファンディング等の収益事業を実施する。	文化財保存活用支援団体・所有者
②	文化財保存活用支援団体と連携した普及啓発活動・情報発信	文化財保存支援団体で法人会員を有する市民団体の活動を通じて、地域住民のシビックプライドを醸成するとともに、情報発信を行う。	文化財保存活用支援団体・行政
③	文化財保存活用地域計画協議会における戦略の見直し	保存活用地域計画協議会にて、日本遺産の取組みとの連動を確認し、5年毎に評価において、戦略の見直しを協議する。	協議会
④	観光データ分析による戦略の見直し	動態調査やアンケート調査、広域の観光データ分析システム等を活用して、マーケティングの見直しを行う。	DMO 行政
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	日本遺産の保存・活用に関する寄附額		77万円
2022			—
2023			158万円
2024	日本遺産の保存・活用に関する寄附額		150万円
2025			150万円
2026			150万円
2027			200万円
2028			250万円
2029			300万円
事業費	2024年度：2,300千円 2025年度：1,200千円 2026年度：1,200千円		
継続に向けた事業設計	普及啓発活動は、個人会員や法人会員の会費を主な財源としている。		
事業費	2027年度：1,200千円 2028年度：120万円 2029年度：120万円		
継続に向けた事業設計	クラウドファンディングによる収益事業を実施する。		



(7) - 3 人材育成

(事業番号3-A)

事業名	御食国アカデミー後継者育成事業		
概要	職人、地域内リーダー、地域サポーター、地域外プレイヤーなど、幅広い世代や分野で御食国を支える後継者である人材育成・確保を行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	文化財の継承を担うインターン生の受入	若狭塗をはじめとした伝統産業について、長期間のインターシップ生を受け入れることで、文化財を支える後継者を発掘・育成する。	文化財関連団体
②	社会人向け教育プログラムの造成	都市部で活躍する次世代リーダーと住民との学びの機会を創出し、地域内次世代リーダーの育成する。	行政
③	地域サポーターの育成	地域住民や事業者など、関心度に合わせた様々な普及啓発活動を通じて、シビックプライドの醸成と滞在コンテンツ創出につなげる。	協議会
④	地域外プレイヤーの育成	京都の料理人や地域外観光プレイヤーに対する情報発信や体験機会の提供により、地域外のプレイヤーとの連携による文化継承やコンテンツ整備につなげる。	協議会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	地域活性化のための人材育成活動の実施数		16回
2022			21回
2023			24回
2024			25回
2025			30回
2026			30回
2027			35回
2028			35回
2029			40回
事業費	2024年度：12,140千円 2025年度：16,740千円 2026年度：13,740千円		
継続に向けた事業設計	人材育成活動は行政だけでなく、民間の自主事業にも展開する		
事業費	2027年度：13,740千円 2028年度：9,140千円 2029年度：9,140千円		
継続に向けた事業設計			

## (7) - 4 整備

(事業番号4-A)

事業名	構成文化財調査・保存・活用事業		
概要	サブストーリーを抽出するための調査や適切な維持のための保存、修理 日本遺産ストーリーを体験してもらう基盤を整備する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	食文化にかかる文化財調査・認定を踏まえたサブストーリー・文化的価値の発信	過年度のささ漬の書籍化による民間商品開発の実績を踏まえ、食文化調査で明らかにした文化的価値を書籍化し、その価値を広く共有し、商品開発やシビックプライド醸成につなげる。	行政・文化財の担い手
②	構成文化財修理・保存	若狭彦神社や萬徳寺など、構成文化財の適切な維持するために、保存修理を計画的に行う。	文化財所有者
③	国史跡・後瀬山史跡ガイド施設整備	構成文化財の後瀬山を中心とした重要伝統的建造物保存地区小浜西組のまち歩き観光拠点となるガイド施設を整備する。	行政
④	鯖街道サイクリング・ウォーキングルート街道観光環境整備	構成文化財の後瀬山を中心とした重要伝統的建造物保存地区小浜西組のまち歩き観光拠点となるガイド施設を整備する。	協議会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	サブストーリーを活用した事業数		
2022			1件
2023			3件
2024			4件
2025			5件
2026			5件
2027			5件
2028			5件
2029			5件
事業費	2024年度：50,530百万円 2025年度：93,570百万円 2026年度：122,340百万円		
継続に向けた事業設計	サブストーリーを活用した民間事業者の商品開発と販売継続を促す		
事業費	2027年度：194,220百万円 2028年度：91,970百万円 2029年度：12,500百万円		
継続に向けた事業設計			

## (7) - 5 観光事業化

## (事業番号5-A)

事業名	鯖街道拠点活用推進事業		
概要	エリアの観光滞在の魅力を高めるため、出店促進や体験コンテンツ・滞在環境を整備するとともに、日本遺産を活かした関連商品を開発する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	重要伝統的建造物保存地区エリア周辺への出店促進・改修・観光開発	整備済の宿泊施設に加えて、町歩きを楽しむための店舗や滞在コンテンツを提供するため、重伝建エリアの特定物件の改修や既存整備施設の磨き上げを行う。	DMO 民間事業者
②	体験コンテンツの開発支援、販売	民間事業者の新規体験コンテンツの開発支援とともに、祭や伝統工芸、寺社周遊の観光商品化に多様な関係者と協働で開発し販売する。	DMO、行政 民間事業者
③	日本遺産ストーリー関連の商品販売	日本遺産ストーリー、サブストーリーに関連する食文化ストーリー、100年フードを活かした商品開発にて、販売商品の付加価値を向上させる。	DMO 民間事業者
④	交通アクセスの向上(バス・サイクリング)等による寺社巡りの推進	需要に応じたバス運行、レンタサイクルの長時間プラン造成により、交通アクセスを向上させるとともに、共通拝観チケット販売などによる魅力ある寺社巡りを推進する	行政 観光協会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	主要な寺社への拝観者数		4,4万人
2022			4,6万人
2023			4,5万人
2024	主要な寺社への拝観者数		4,9万人
2025			5,2万人
2026			5,7万人
2027			6,1万人
2028			6,6万人
2029			7,1万人
事業費	2024年度：30,000千円 2025年度：91,500千円 2026年度：56,500千円		
継続に向けた事業設計	重伝建地区への出店に伴う改修費は主に所有者負担で、エリア内で連携した収益事業で投資を回収する		
事業費	2027年度：6,500千円 2028年度：6,500千円 2029年度：6,500千円		
継続に向けた事業設計	寺社周遊促進については、チケット販売により収益を確保しながら進める。		



(7) - 6 普及啓発

(事業番号6-A)

事業名	地域連携による幅広い世代への普及啓発事業		
概要	行政による出前講座のほか、民間事業者や地域団体、大学、地域プレイヤーと連携した普及啓発によりシビックプライドや認知度を高める。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	小中高への出前講座の実施	学校での座学や日本遺産ガイド施設等における学習機会の提供を通じて、日本遺産への理解と関心を高め、シビックプライドを醸成する。	協議会 小中高校
②	民間事業者や地域団体による学生に対する普及啓発活動の実施	鯖街道踏破体験や構成文化財を活用した商品開発の支援等、民間や地域団体による普及啓発を継続するとともに、事例共有等で横展開させる。	民間事業者 地域団体
③	大学と連携した調査学習研究および実践	立命館大学食マネジメント学部や福井県立大学講義等と連携し、日本遺産関連の課題解決にむけた調査や研究、実践活動を行う。	大学 協議会
④	民間団体が主導するイベント	民間が主導する鯖街道沿線連携イベントや鯖街道拠点でのまち歩きイベントを継続するとともに、新たな取り組みを連携して立ち上げる。	民間事業者 協議会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	出前講座等の学習体験をした者の数		316人
2022			336人
2023			421人
2024	出前講座等の学習体験をした者の数		450人
2025			470人
2026			490人
2027			510人
2028			530人
2029			550人
事業費	2024年度：4,000千円 2025年度：2,500千円 2026年度：1,500千円		
継続に向けた事業設計	イベントは運営が民間主導を継続・促進し、出店料等で収益化する。		
事業費	2027年度：1,500千円 2028年度：1,500千円 2029年度：1,500千円		
継続に向けた事業設計	子どもへの教育活動に関しては、民間事業者も含め地域貢献の意識が強く、継続性が高い。		

(7) - 7 情報編集・発信

(事業番号7-A)

事業名	情報編集発信事業		
概要	日本遺産を発信するウェブサイト、SNS 等における情報提供の手法改善や多言語情報量の充実により、ターゲットに訴求する情報発信を行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	日本遺産発信 WEB サイト トリニュアール	DMO や観光協会、協議会など、日本遺産に関する様々な WEB サイトが増えてきたことから、一体的に情報発信する WEB サイトを制作する。	観光協会 DMO 協議会
②	SNS による継続的な情報発信	日本遺産の情報発信をするための画像やテキストを共有し、観光客と接点のある様々な団体からの SNS での情報発信を継続する。	観光協会 DMO 協議会
③	コンテンツの多言語化とインバウンドツアーの販売造成	宿泊施設や体験コンテンツの多言語化を進めるとともに、専門人材とともに協働し、造成・販路開拓し、インバウンドツアーを販売する。	DMO 民間事業者
④	情報発信の切り口と媒体の多角化	八百比丘尼伝説などターゲットに訴求する切り口で発信と、モンベルをはじめ民間や広域組織と連携した情報発信を行う。	観光協会 観光事業者 協議会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	日本遺産「御食国若狭と鯖街道」を発信する SNS アカウントのフォロワー		1,007 フォロワー
2022			1,384 フォロワー
2023			1,592 フォロワー
2024	日本遺産「御食国若狭と鯖街道」を発信する SNS アカウントのフォロワー		1,900 フォロワー
2025			2,200 フォロワー
2026			2,500 フォロワー
2027			2,800 フォロワー
2028			3,100 フォロワー
2029			3,400 フォロワー
事業費	2024 年度：12,000 千円 2025 年度：5,000 千円 2026 年度：2,000 千円		
継続に向けた事業設計	SNS による情報発信は、素材を関係者で共有して、様々な団体を行う。		
事業費	2027 年度：2,000 千円 2028 年度：2,000 千円 2029 年度：2,000 千円		
継続に向けた事業設計	インバウンドツアーは収益事業として継続する。		